

## 平成28年4月熊本地震での保健活動紹介

- 1 表 熊本地震における千葉県災害保健活動（菊池郡大津町への支援）
- 2 熊本県大津町における保健師活動通信 No.1～No.4

表 熊本地震における千葉県災害保健活動（菊池郡大津町への支援）

	フェイス0（初動体制の確立）	フェイス1（緊急対策）	フェイス2（応急対策）					
	4月14日 （21時26分前震発生）	4月15日 16日（1時25分本震）	～第1週（～4/20）	第2週（4/21～27）	第3週（4/28～5/4）	第4週		
大津町 主な被災状況 町の様子	最大震度7（益城町）	最大震度7（益城町、西原村）	震度5強 ・避難所開設	震度6強 避難所開設 ・電気× ・断水 ・断ガス	4/17AM避難所73（12,879人） ・福祉避難所（指定なし） ・電気○ ・断水or水圧低いが改善	4/19避難所38（6,876人） ・4/24救護所立上げ ・各避難所は町職員1名交代で常駐 避難者代表（区長等）が責任者 ・スーパー・コンビニ商店 ・4/23飲用水可確認 ・給水町内2か所で実施	4/26避難所18（日中194夜間792） 避難所の統合始まる（5/9学校再開） 4/30～避難所日中はシルバー人材センターや町職員 夜間は警備会社・消防団等 ・5/1段ボール型バーテッ	5/5避難所
	健康課題と対策			・食事はAMおにぎり2個、PM菓子パン配食（自衛隊搬入）	・炊き出し（一部避難所） ・野菜ジュースカロ	・インフル発症2名（家族で別避難所へ・健康観察） ・感染症対策（インフル・ノロ等）手指消毒の設置、うがい励行、トイレ掃除、掃除、換 ・エコノミークラス症候群予防啓発、散歩等運動の勧め （医師の診察後弾性ストッキング配付・着脱指導） ・眠れない、余震が怖い、子どもが家に戻ると泣く等不安の訴え多い	・段ボールベッド1名（一部避難所） ・持病の悪化（巡回診療・救急搬送） ・気温上昇（熱中症予防・食べ物の管理注意喚起） ・マダニによる発疹	・段ボールベッド8名
ミーティング	人口約33,000人、世帯数約13,000、 ・保健師8名（衛生5・地域包括3） ・栄養士1（衛生1） 保健所地区担当保健師1名			・ミーティング（保健所・町保健師等・保健師チーム・看護師・DMAT・DPAT・JRAT等） （毎日16時～保健所地区担当保健師運営） （町より被災状況等報告、各チームの支援活動報告・連絡調整等）				
大津町への 災害支援	医療		・4/17～DMAT（避難所巡回）支援ニーズの把握・巡回診療・高齢者へ弾性ストッキング配付 ・他県医療機関から衛生材料の提供 ・他県医療チーム（避難所巡回）	・4/23DPATによる心のケア（避難所巡回・個別事例に対応） ・4/27JRAT（避難所巡回） ・4/23自衛隊が診療所開設（総合体育館） ・4/24医療救護所（総合体育館）インフルキット、薬処方可、弾性ストッキング等 ・4/26県外薬剤師会（薬の相談・ノロキット配付） ・摂食嚥下チーム（総合体育館を拠点、口腔状態悪い方に対応） ・熊本県歯科医師会による入歯洗浄等配付				
	保健		・4/17～福岡県保健師～5/31	・4/22～千葉県保健師～6/12 ・4/23～茨城県保健師～5/31 ・4/22～キャンナス（総合体育館の夜間対応） ・4/23～災害派遣ナース（福祉センター夜間対応） ・日本栄養士会チーム（要支援者等の食生活指導）				
千葉県 ・柏市・船橋市 保健師派遣 活動状況				4/22～1班 4/25～2班 4/29～3班 5/3～4班 5/	・避難所・避難所巡回（健康管理・環境整備・避難者と他支援チームの調整・健康課題への対応） ・地区住民集会での相			
千葉県の対応 （主につくり課）		・4/16厚労省より派遣可否確認メール ・政策課と協議・部長レク ・派遣決定 ・派遣者調整開始 ・派遣準備開始	・4/19リフレジョ（1・2班） ・4/20リフレジョ（3・4班） ・保健所と調整・情報収集 ・EMISで避難所情報収集	・4・26活動通信No.1発行		・5/6班 ・5/6班		

		フェイズ3(復旧・復興対策)							
(5/5~5/11)		第5週 (5/12~5/18)		第6週 (5/19~5/25)		第7週 (5/26~6/1)		第8週 (6/2~6/9) 第9週 (~6/15)	
<p>5/12 (日) 114夜間419)</p> <p>5/18避難所9 (日) 79夜間176)</p> <p>今後6/1みなし住宅</p> <p>7/1仮設住宅へ移行</p> <p>一部避難所に配置</p>	<p>5/28避難所6 (日) 90夜間162)</p> <p>5/29カーテン型パーテーション一部避難所に配置</p>	<p>6/16避難所5 (日) 46夜間87)</p>							
<p>リーメート配付 (一部避難所)</p> <p>5/10アレルギー対応の配食</p> <p>気等</p> <p>(一部避難所)</p>	<p>・民生委員がゆで卵配付 (一部避難所)</p> <p>・町で口腔ケアのチラシ作成周知啓発</p> <p>・ごみ防虫対策</p>	<p>・避難所の衛生管理注意喚起</p> <p>・食事AMおにぎり夕弁当配食</p> <p>・梅雨時期</p>	<p>・5/29カーテン型パーテーション一部避難所に配置</p> <p>・ダニ対策</p>						
<p>→</p> <p>→</p>	<p>・5/8日曜ミーティング休み</p> <p>・5/16~ミーティング週3回 (月水金)</p> <p>・地域包括で朝夕訪問ケース引継ぎ</p> <p>・5/17母子保健事業開始</p>								
<p>(5/8自衛隊撤収)</p> <p>付</p>	<p>→ ~6/26</p> <p>→ ?</p>								
<p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p>	<p>・5/10板橋区保健師~5/24</p>	<p>→ ~6/11</p> <p>→ ?</p>							
<p>7/5班 (柏)</p> <p>5/11~6班</p> <p>5/15~7班 (柏)</p> <p>5/19~8班</p> <p>5/23~9班 (船)</p> <p>5/27~10班 (船)</p> <p>5/30~11班 (船)</p> <p>6/3~12班</p> <p>6/7~12 13班</p>									
<p>高等)</p> <p>談</p>	<p>・健康訪問調査</p>	<p>・地区住民集会以での相談</p>							
<p>5/9リポート (6班)</p> <p>5/9活動通信No.2発行</p> <p>報告会 (保健・医療支援)</p>	<p>・5/16リポート (8班)</p> <p>・5/9活動通信No.3発行</p>	<p>・5/27リポート (12・13班)</p> <p>・5/31活動通信No.4発行</p>							

# 熊本県大津町における保健師活動通信

No.1(平成28年4月26日)

健康福祉部健康づくり支援課発

平成28年4月14日以降に発生した熊本県を中心とする一連の地震活動により被害を受けた被災地では、死者60人、負傷者1,432人、住家の全壊1,675棟、半壊1,557棟、一部損壊2,617棟などの甚大な被害が発生しています(総務省消防庁発表:4月25日午前7時00分発表)。

厚生労働省より今般の地震により被災した熊本県への保健師派遣要請があったことから、県では船橋市、柏市との合同チームで4月21日から、保健師を2人ずつ派遣することになりました。

## 熊本県大津町を目指して4月21日、千葉を出発!

4月20日、災害派遣出発式が行われ、飯田部長から激励の言葉をいただきました。

(災害派遣出発式の様子)



派遣先での活動を4月22日より始めるため、県からの派遣職員第1班(保健師2名、支援調整要員2名)の計4名が、21日午前9時45分、羽田空港から飛行機で出発しました。

午前11時45分九州佐賀国際空港に到着(熊本空港は被災により閉鎖)、現地ではレンタカーで移動します。

前泊を行い、翌22日から派遣先の大津町へ向かいました。活動の拠点となる大津町子育て・健診センターでミーティングを行い、担当避難所へ向かいました。

5泊6日の派遣期間、自分自身の健康に十分留意し、被災者の方々への支援をお願いします。

### 大津町

人口: 33,716人  
(2015/3/31)  
高齢化率: 約20.2%

~今回、派遣される職員です~

【1班】 4/21~4/26

市川 滋子(健康づくり支援課)  
小島 玲子(健康づくり支援課)  
菅澤 能威(健康福祉政策課) ※  
寺田 孝行(健康福祉政策課) ※

【2班】 4/25~4/30

吉水 雅子(健康福祉政策課)  
藤木美恵子(健康づくり支援課)  
根本 陽介(疾病対策課) ※

【3班】 4/29~5/4

伴流 光(高齢者福祉課)  
榎本 祐子(安房健康福祉センター)  
林 太一(薬務課) ※

※は調整担当です。

4班以降については次号お伝えします。

## 現地報告第1報:大津町内の4か所の避難所を巡回

### 派遣先

室小学校(大津町室1825)

避難者数 約120名(4/24現在 車中泊含む)

美咲野小学校(大津町美咲野2丁目1733-1)

避難者数 昼:約30名、夜:200名(4/22現在)

大津町老人福祉センター(大津町室151-1)

避難者数 昼:約130名、夜:約200名(4/22現在)

矢護川コミュニティセンター(大津町引水62)

避難者数 昼:約71名、夜:300名(4/22現在)

[ライフライン] 電気、電話は復旧済みですが、ガスは一部復旧していない状況です。また水道も一応復旧しましたが、濁っており飲み水としては不適です。

配給食糧は水とおにぎりもしくはパンが1日2~3回、他の避難所では炊き出しを行っているところもあります。

[活動状況] 各避難所の運営状況を確認した後、室小学校では個別の健康状態の把握や、トイレの消毒、トイレ・食事等の手洗い等手指消毒の周知、ボランティアの役割調整等を行いました。

大津町の他の避難所ではインフルエンザの発症者が出ており、担当避難所でも体調不良の訴えが多くなっています。ノロウイルス対策も含め感染症対策や、車中泊の避難者を中心にエコノミー症候群に留意し、健康状況の確認や健康相談等を行っています。

# 熊本県大津町における保健師活動通信

No.2(平成28年5月6日)  
健康福祉部健康づくり支援課発

## 現地報告第2報:1班2班の主な活動

### 拠点避難所に保健師が駐在し、健康状態の確認や衛生管理を実施

大津町へは3県の保健師チームが支援に入り、避難者数が多く課題がある、総合体育館(福岡県)、老人福祉センター(茨城県)、室小学校体育館(千葉県)、子育て・健診センター(大津町)に保健師が駐在し活動しました。

避難者の健康状態把握、不安の訴えを傾聴、感染症予防対策、環境整備、廃用症候群・エコノミー症候群予防のための啓発、避難所運営スタッフとの打合せ等々・・・あっという間です。

被災者の方は、いろいろな不安を抱えていました。例えば・・・

家の片づけに戻っても怖くて家のドアを閉めて片づけができない  
夜また地震が来ると、家に帰ることが不安なので、夜だけは避難所に避難している  
自宅に戻った時に余震があり、涙が止まらなくなってしまう、また避難所に戻ってきた  
片づけが進まなくて、気持ちばかり焦ってしまい不安になって涙がでてる  
幼児を抱えたお母さんからは、子どもが家に帰ると怖がり泣いてばかりいるので、家に戻れない  
等々

被災者の方の体調や不安の訴えを伺い、必要に応じてDPATと連携を取りました。

疾病を抱えて避難されてきている方もいます。

例えば・・・

- ・1か月前に胃ろう造設し夜間経管栄養を行っている方
- ・多発性筋炎でプレドニンを内服している方
- ・2ヶ月間の抗がん剤と放射線治療を受け退院したばかりの方

個別の健康状態を把握し、避難所内での生活をサポートしました。中には・・・

単身で被災されたI型糖尿病の方が風邪から食べられなくなり、医療救護班(DMAT)の診察、生活困窮相談担当・保健所保健師と連携し、救急搬送により入院となりました。



## 毎日16時から支援チーム合同のミーティングを開催

詳細は次号でお伝えします

～千葉県・船橋市・柏市合同チーム 4班以降の派遣職員を紹介します～

【4班】 5/3～5/8

藤田 豪 (市川 HC)  
加賀 優子 (君津 HC)  
川名 徹 (保険指導課) ※

【5班】 柏市 5/7～5/12

高木 絹代  
小倉 恵美  
戸来 小太郎 (医師)  
谷口 恵子 ※

【6班】 5/11～5/16

川崎 由紀 (印旛 HC)  
鈴木 拓也 (市川 HC)  
高橋 隆太 (衛生指導課) ※

【7班】 柏市 5/15～5/20

根本 暁子  
梅宮 千穂  
菅谷 賢司 ※  
平川 正明 ※

【8班】 5/19～5/24

三塚 智子 (市原 HC)  
鈴木 美奈 (松戸 HC)  
露木 佳枝 (医療整備課) ※

【9・10班】 船橋市 5/23～5/31

調整中

※は調整担当です。

# 熊本県大津町における保健師活動通信

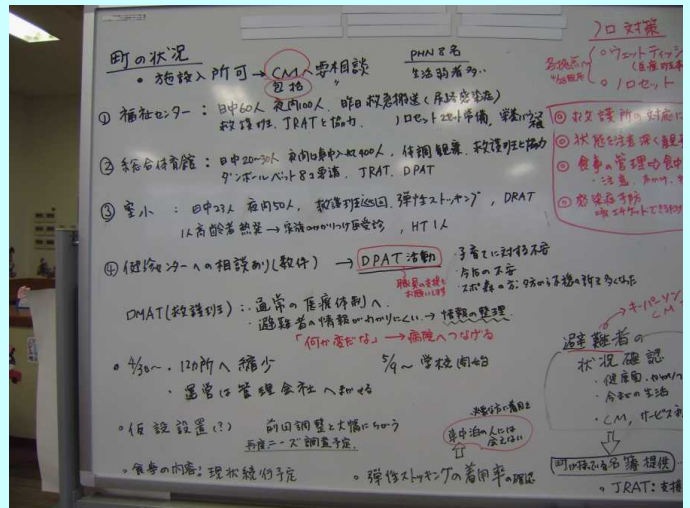
No.3(平成28年5月9日)

健康福祉部健康づくり支援課発

## 毎日16時から支援チーム合同のミーティングを開催

町の保健活動拠点である「子育て・健診センター」に、その日支援に入ったチームが集合し、ミーティングを実施します。ミーティングは菊池保健所の保健師が進行し、町保健師から災害対策本部の情報報告、各チームの活動報告を行い、当面の活動方針と明日の活動についてホワイトボードにまとめ、支援チームの情報提供を行っています。

参加した支援チームは、DMAT（医療救護班）、DPAT（こころのケア）、JRAT（リハビリ）、災害支援ナース・キャンナス（拠点避難所の夜間駐在）、厚生労働省等です。



\*支援チームへの情報発信・共有に、スマートフォンのアプリ「LINEグループ」が活用されています。

## 現地報告第3報:3班4班の主な活動

### 避難所が集約され、避難所巡回や地域の集会での健康観察等を実施

学校再開に向け避難所が公設18か所から12か所（4月30日）に、その後の避難者数の減少で8か所（5月3日）に集約となりましたが、まだ、日中は約120人、夜間は約420人（うち車中泊が約150人）の方が避難しています。

千葉県は、大津地区公民館分館、薬膳ふれあいプラザ、人権啓発福祉センターの3か所の避難所を担当し避難所の巡回を中心に、避難者の健康状態の確認を行っています。例えば

- ・医療救護班（DMAT・JCHO）と連携し、エコノミー症候群予防の弾性ストッキング着用状況の確認や、血圧上昇した方の健康観察と同行受診の実施
- ・DPATと連携した発達障害のある家族への支援
- ・民生委員さんからの要望で地域の集会所で開催されるグランドゴルフ後の昼食会に参加し、集まった高齢者の方から話を伺いながらのこころのケアを実施

他にも、避難所内の環境整備としてトイレの消毒や寝具のダニ対策、熱中症予防や食中毒予防等の啓発を行っています。

熊本県からの要請で、熊本地震への災害派遣は5月31日まで続きます。

# 熊本県大津町における保健師活動通信

No.4(平成28年5月31日)  
健康福祉部健康づくり支援課発

## 【現地報告5班・6班・7班・8班の主な活動】

### 避難所支援～要援護者への健康訪問調査開始 !!

連休明け5月11日より、町の要援護者リストから区長・民生委員さんが廻って心配な方の名簿を基に、家庭訪問が開始されました。大津町を4つの地区に分け、千葉県(室地区)、茨城県(大津地区)、福岡県(南部)、板橋区(北部)を担当します。

訪問時、大津町長からの「健康訪問調査のお知らせ」により訪問目的を伝え、世帯毎に「健康相談票」を使ってアセスメントを行い、支援が必要な方には必要な機関へつなげることを了承していただき、帰庁後、記録の整理と、町の地域包括支援センター保健師に引継ぎを行います。また、訪問時生活支援の情報が必要な方にちらしをお渡しています。

千葉県の担当名簿は400件以上、住宅地図を使って訪問先・訪問ルートを決め出発します。

午後から平均10件程度訪問し、不在の場合は確実に要援護者宅と確認できれば不在連絡票を置きます。こころのケアが必要なケースはDPATの面接を調整しました。



## 感染症予防・エコノミー症候群予防に加えて

### 熱中症予防や食中毒発生予防など健康観察等を実施 (\*~\*)

避難所は8か所に集約となりましたが、夜間になると避難者が増える状況が続いています。車中泊の方もまだ多く、エコノミー症候群や感染症への対応はつづけられています。また、新たな問題として、気温の上昇による熱中症対策や食中毒、ダニやゴミ捨て場の虫の発生などに対する防虫対策などが必要となっています。



避難所のトイレ消毒

- ・避難者の健康状態の確認
- ・暑くなり、蚊やムカデ・ダニなどの防虫対策
- ・布団を畳んだままなので、布団干しを提案周知し、翌日実施



写真使用の了解を得ております

\*支援チームへの情報発信・共有に、スマートフォンのアプリ「LINEグループ」が活用されています。  
\*ミーティングでは、保健チーム、DPAT、JRATとの情報交換を行っています。5月8日から日曜日中止(町への活動報告は実施)、14日からは土日中止し月・水・金の開催になりました。「LINE」は、休日診療機関など情報を得たり、支援者間の時間調整などに活用しました。

## 「熊本県からの延長要請」

5月31日で派遣終了の予定でしたが、6月12日(日)まで継続します。11班以降を紹介します。

- 【11班】 5/30~6/4 船橋市 今田雅子(船橋市HC) 森陽子(市包括支援課) 安倍賢\*(市危機管理課)
- 【12班】 6/3 ~6/8 白石瑞貴(印旛HC) 山本優子(八日市場地域保健センター) 河合佑亮\*(健康福祉指導課)
- 【13班】 6/7~6/12 山下春菜(習志野HC) 家城佳代(障害福祉課) 星野智哉\*(児童家庭課)(\*調整担当者)

